

# 2010年3月期 決算説明会

## プラマテルズ 株式会社

(証券コード 2714)

- I. 2010年3月期連結決算概要**
- II. 当社の強みと基本戦略**
- III. 市場動向**
- IV. 2011年3月期連結決算予想**

## I . 2010年3月期 連結決算概要

1. 2010年3月期 連結決算
2. 取扱商材別連結売上高増減
3. 当社の取扱合成樹脂原材料の特性
4. 販売先業界別売上高構成比
5. 販売先業界別売上高構成比(単体)
6. 連結営業利益の変動要因
7. 連結貸借対照表
8. 連結キャッシュ・フロー

# 1. 2010年3月期 連結決算

(単位:百万円、%)

	09/3期		10/3期			
	金額	売上高比	金額	売上高比	当初予想比	前年度比
売上高	52,550	100.0	47,145	100.0	+2.5	▲10.3
うち海外売上高	8,392	16.0	9,093	19.3	-	+8.4
売上総利益	3,148	6.0	2,838	6.0	-	▲9.8
営業利益	893	1.8	663	1.4	+39.6	▲25.7
経常利益	809	1.6	621	1.3	+42.8	▲23.2
当期純利益	489	1.5	388	0.8	+49.2	▲20.6

## 売上高

前年度比▲10.3%、当予比+2.5%

- 年度後半から盛り返しを図るも、上期の大幅な需要落ち込みが響き、対前年度比ではマイナスに
- 海外は、下期以降の香港の好調や大連の稼動開始(2ヶ月)もあり、通期で増収に

## 売上総利益

前年度比▲9.8%

- 減収に伴う減益も、粗利率はほぼ横ばい。

## 営業利益

前年度比▲25.7%、当予比+39.6%

- 減収により前年度比でマイナスも、高付加価値商材の商い戻り、対当予比では、増益に

## 当期純利益

前年度比▲20.6%、当予比+49.2%

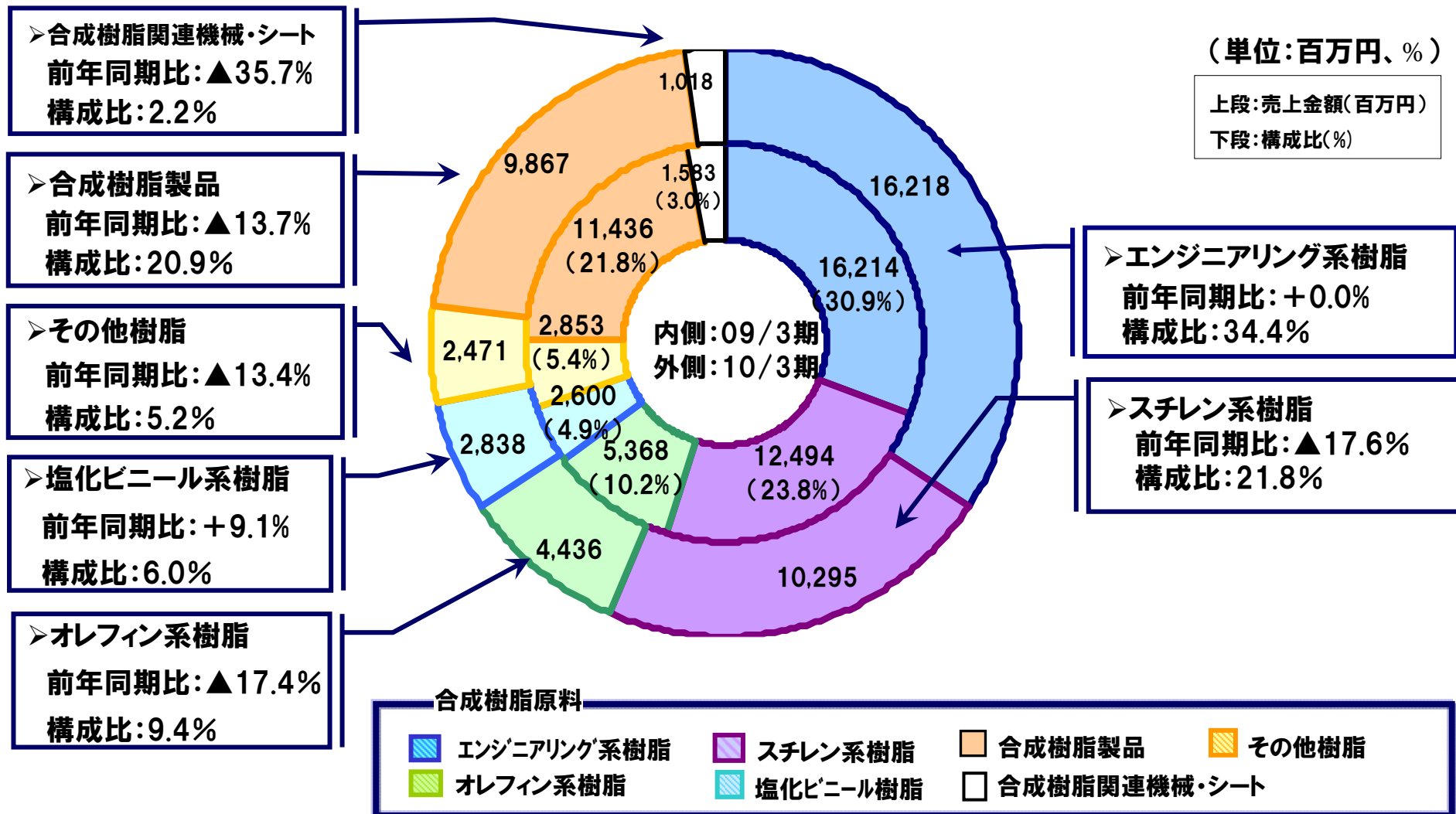
- 関係会社出資金売却損等によるマイナスも、投資有価証券売却益等によりプラスに

※平成21年10月23日、及び平成22年4月14日に業績予想の修正を行っております。

※年間配当13.00円を予定。

## 2. 取扱商材別連結売上高増減

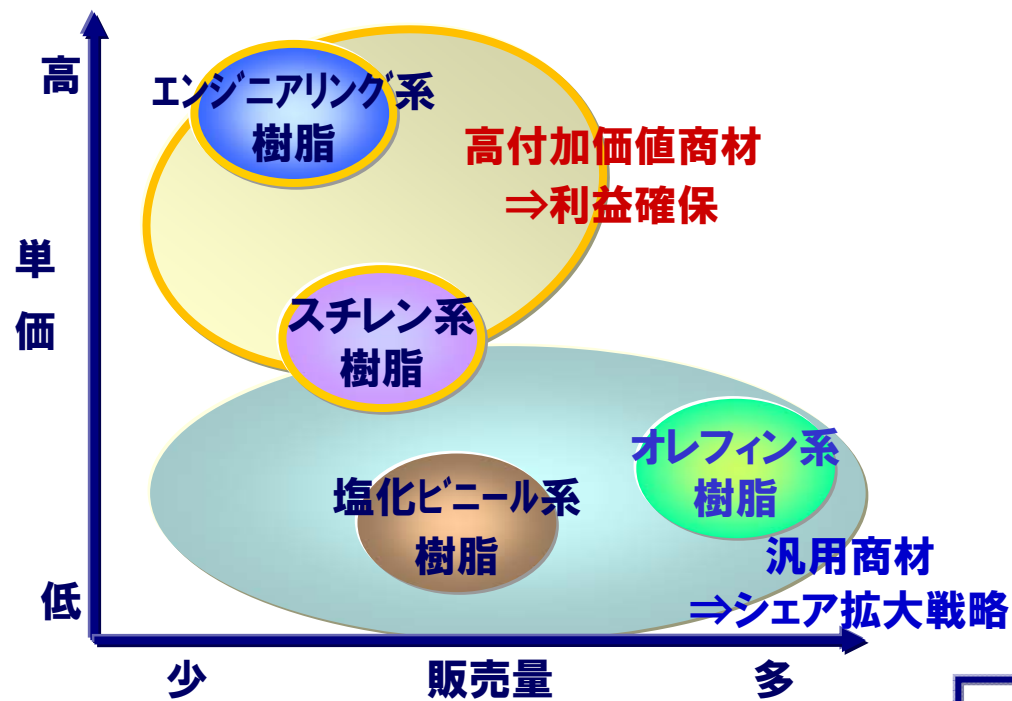
高付加価値商材が売上高全体の5割超を占める



### 3. 当社の取扱合成樹脂原材料の特性

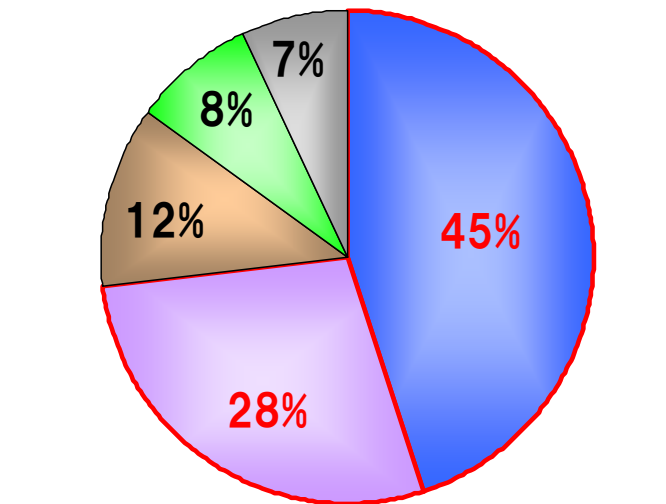
相対的に単価の高い高付加価値商材に注力

【国内市場における樹脂別単価、数量イメージ】



【当社合成樹脂売上高実績(10/3期)】

- エンジニアリング系樹脂
- スチレン系樹脂
- オレフィン系樹脂
- 塩ビニル系
- その他樹脂



高付加価値商材が合成樹脂売上高の7割超を占める

# 4. 販売先業界別売上高構成比

OA・事務機器、家電・電子が全体の約50%を占める

当社の取扱商材(合成樹脂)	主な製品
<b>スチレン系</b> > ポリスチレン > ABS樹脂	> 家庭電器製品 (テレビ、エアコン、冷蔵庫等) > 事務機器 (パソコン及び周辺機器、FAX等) > 玩具等
<b>オレフィン系</b> > ポリエチレン > ポリプロピレン	> 家庭電器製品 > 医療器具(注射器具等) > 自動車部品(ハンドル、内装部品)
<b>エンジニアリング系</b> > ポリアミド樹脂 > ポリアセタール > ポリカーボネート	> 光学機器(カメラ等) > 精密部品(ファスナー、ギア等) > 医療用具 > 電子部品(コントローラー等)
<b>塩化ビニール系</b> > 塩化ビニール樹脂	> 建材業界 (床材、壁紙)
<b>その他</b> > 上記に属さないPET、MMA、エラストマー樹脂等	> 飲料ボトル > 自動車部品 > 玩具

【当社の主な販売先動向(単体)】

	ウェイト
OA・事務機器	34%程度
家電・電子	16%程度
自動車	6%程度
医療器	7%程度
建材	9%程度
容器・化粧品	3%程度
玩具・その他	25%程度

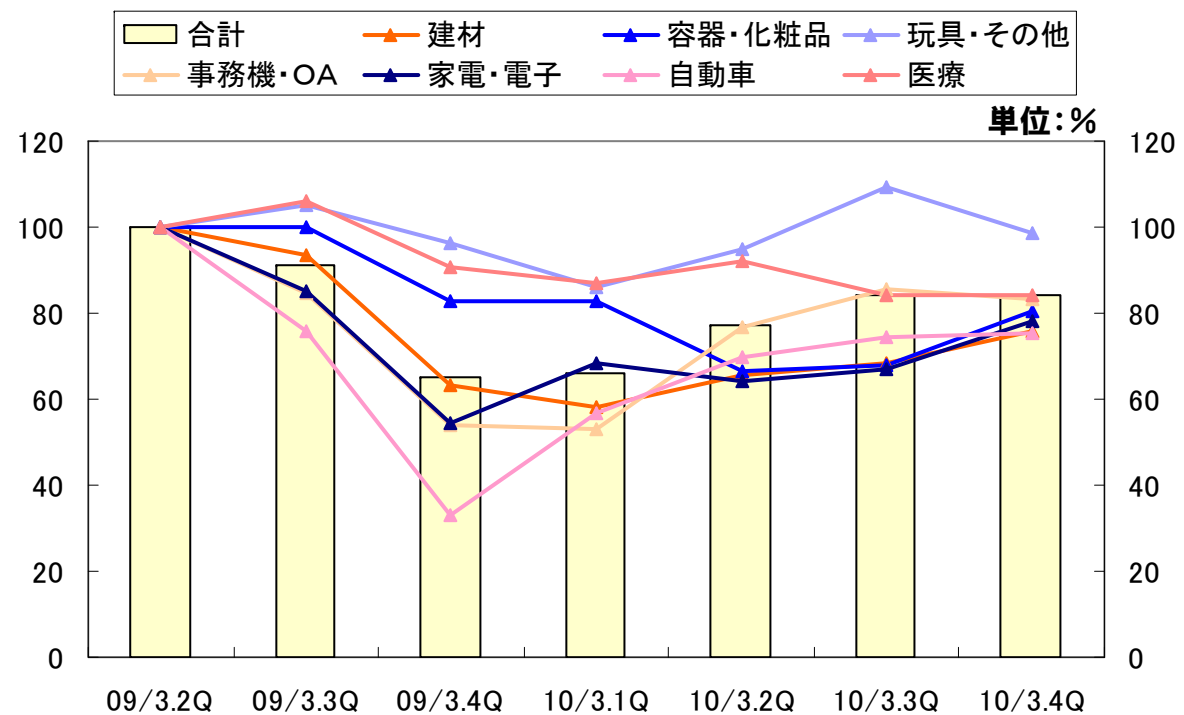
\*販売先業界別売上高構成比は、単体ベースで売上高上位100社の構成比及びトレンド記載。

# 5. 四半期 販売先業界別売上高構成比

- 10/3期4Q全体では、09/3期4Qを底に、対09/3期2Q比で約85%水準にまで回復
- 構成比の大きいOA・事務機器は、09/3期2Q比で約85%水準にまで回復
- 落ち込みの大きかった自動車も、対09/3期2Q比で一時期3割水準にまで落ち込んだが、7割水準にまで回復

09/3期2Q実績を100とした場合の当社の主な販売先売上高(単体)の推移(四半期別)

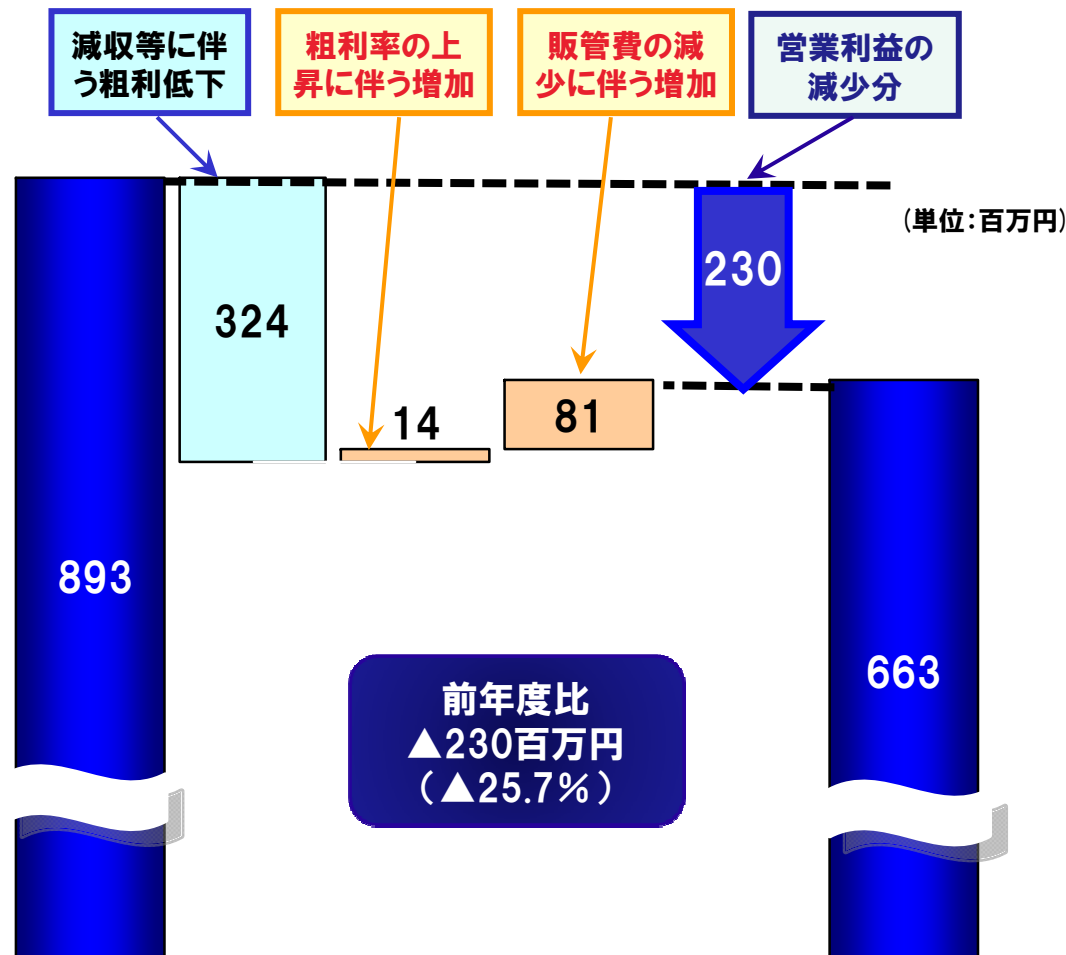
	10/3期4Q実績 (対09/3期2Q比)
OA・事務機器	約85%
家電・電子	約80%
自動車	約75%
医療器	約85%
建材	約80%
容器・化粧品	約80%
玩具・その他	約100%
全体	約85%



\*販売先業界別売上高構成比は、単体ベースで売上高上位100社の構成比及びトレンド記載。

## 6. 連結営業利益の変動要因

### 売上高の減少に伴う減益



### 営業利益の増減要因

#### ◆減収分 (▲324百万円)

- ▶ 下期には主要需要先を中心に回復するも、上期の落ち込み大きく減収

#### ◆粗利率上昇(+14百万円)

- ▶ 高付加価値商材の商い戻り、粗利率は微増に

#### ◆販管費減少(+81百万円)

- ▶ コスト削減努力

営業力の強化により更なる成長を目指す

09/3期営業利益

10/3期営業利益

# 7. 連結貸借対照表

(単位:百万円、%)

	09/3期末		10/3期末		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	16,017	88.2	19,787	90.4	3,770
現金及び預金	2,393	13.2	1,902	8.7	▲491
売上債権	12,544	69.1	16,539	75.6	3,995
たな卸資産	749	4.1	1,034	4.7	285
固定資産	2,146	11.8	2,090	9.6	▲56
投資その他の資産	1,372	7.6	1,393	6.4	21
資産合計	18,164	100.0	21,877	100.0	3,713
流動負債	11,679	64.3	14,992	68.5	3,313
買掛債務	8,732	48.1	11,398	52.1	2,666
短期借入金	2,575	14.2	3,100	14.2	525
未払法人税等	45	0.2	134	0.6	89
固定負債	1,138	6.3	1,145	5.2	7
長期借入金	549	3.0	609	2.8	60
負債合計	12,818	70.6	16,137	73.8	3,319
純資産	5,346	19.7	5,739	26.2	393
株主資本	5,392	29.7	5,661	25.9	269
負債・純資産合計	18,164	100.0	21,877	100.0	3,713

## 連結B/Sの増減要因

売上債権の増加に伴い、現金及び預金は減少

商いの大きく落ち込んでいた昨年度末に比べ、商いの活発化に伴い、売上債権は増加

商いの活発化に伴う買掛債権の増加

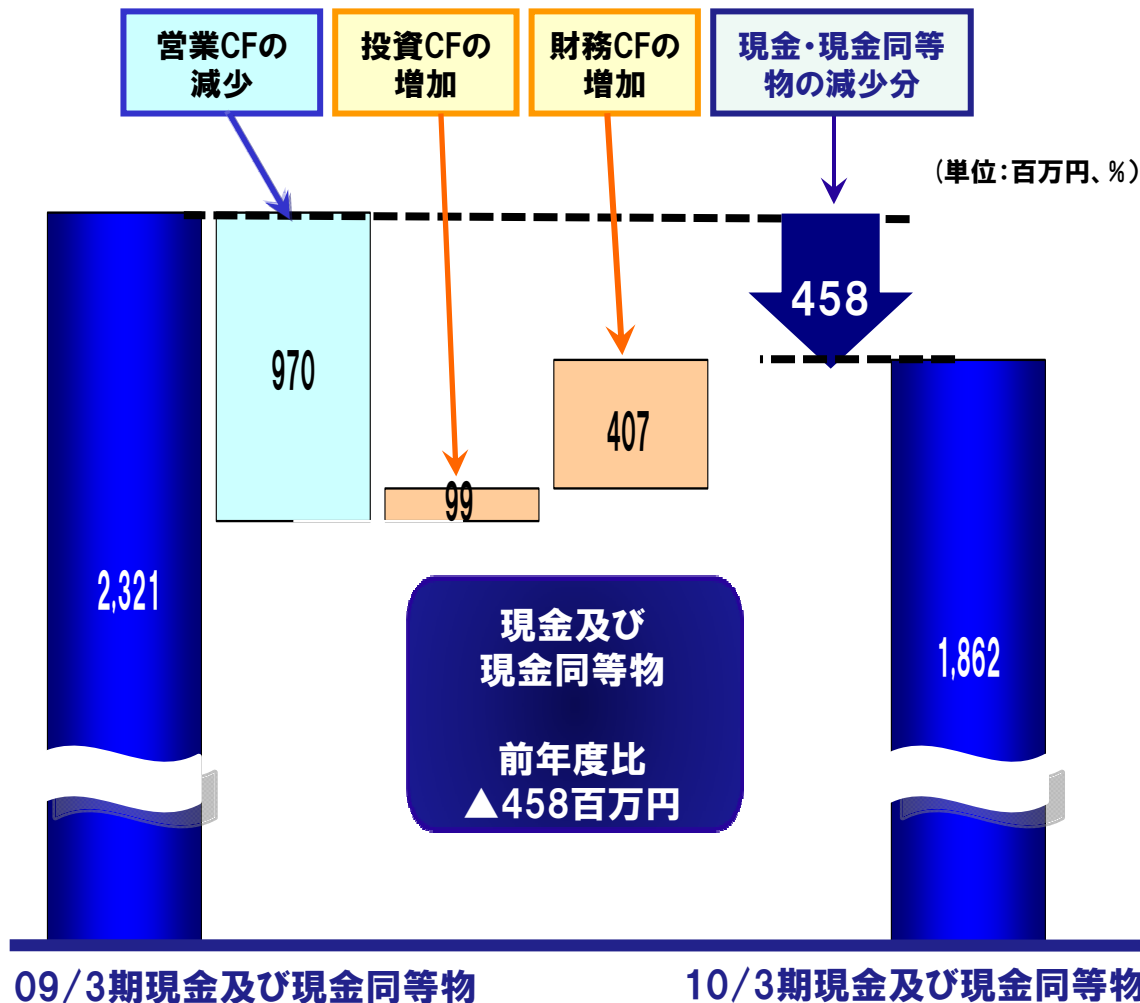
海外子会社の更なる拡大に向けた資金調達のため、借入金は増加

利益剰余金の増加(+2.6億円)に伴う増加

自己資本比率 10/3期末 26.0%  
(09/3期末 29.2%)

## 8. 連結キャッシュ・フロー

一時的な営業CFのマイナスも、十分なFCFの水準は維持



### 現金及び現金同等物の増減要因

(百万円:M(Million)と表記)

#### ◆営業CF (▲970百万円)

- 売上債権の増加(▲3,978M)
- 仕入債務の増加 (+2,654M)
- 税引前当期純利益(+655M)

#### ◆投資CF(+99百万円)

- 投資有価証券の取得及び売却  
(取得▲44M、売却+132M)

#### ◆財務CF(+407百万円)

- 短期借入金の増加(+580M)
- 長期借入による収入(+200M)
- 長期借入金の返済(▲196M)
- 配当支払(▲119M)

## II. 当社の強みと基本戦略

9. 当社の戦略ビジョン
10. 今後の海外拠点動向
11. 当社のコア・コンピタンス
12. 原材料価格の変動に左右されにくい安定した利益率
13. 為替の影響

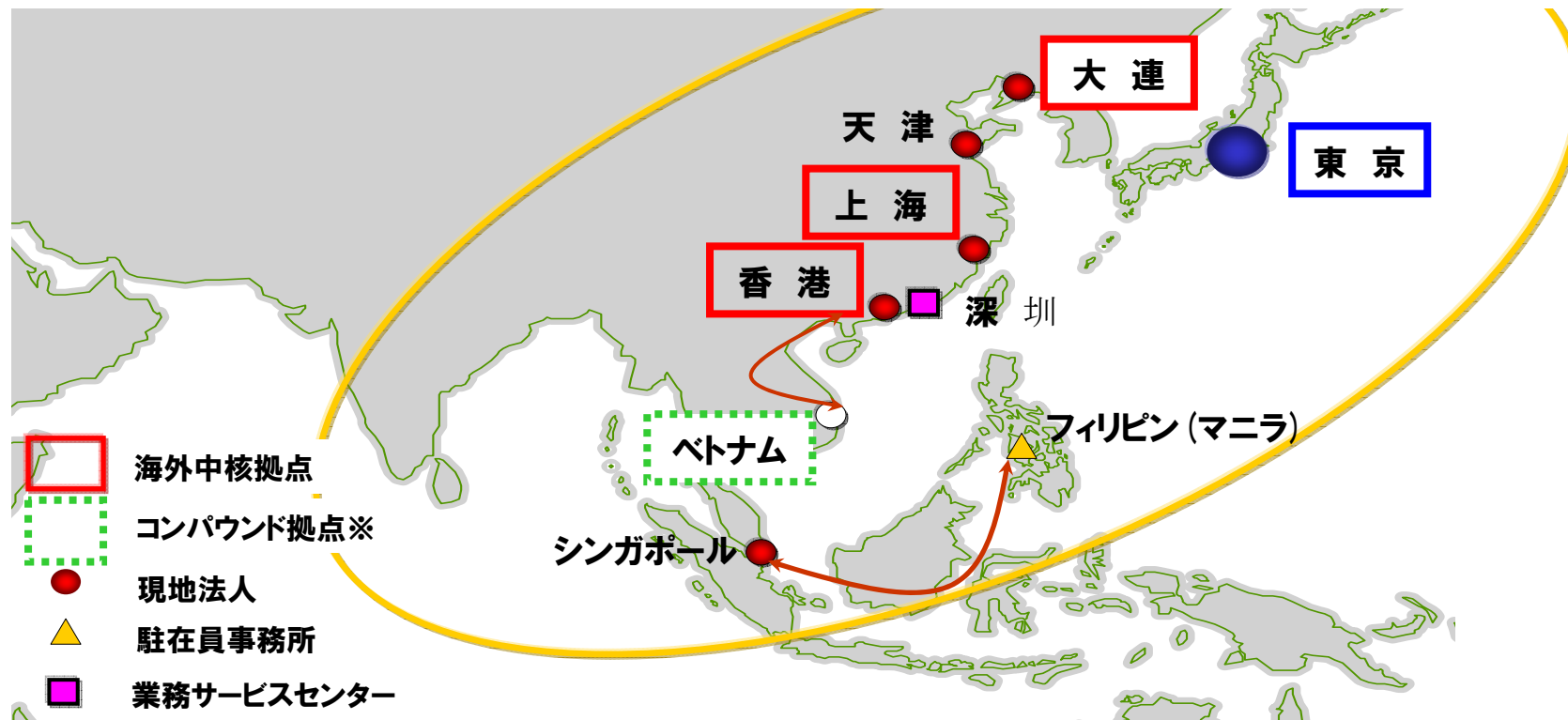
## 9. 当社の戦略ビジョン

### 合成樹脂の素材専門商社として、グローバル・プレーヤーとしての橋頭堡を築く

#### ▶ アジア進出を進める日系企業への供給体制の充実

中国市場での販路拡大に向け、深圳業務サービスセンターを2009年1月に設立、現在8号令販社への申請手続中  
2009年8月に大連に海外子会社を設立。

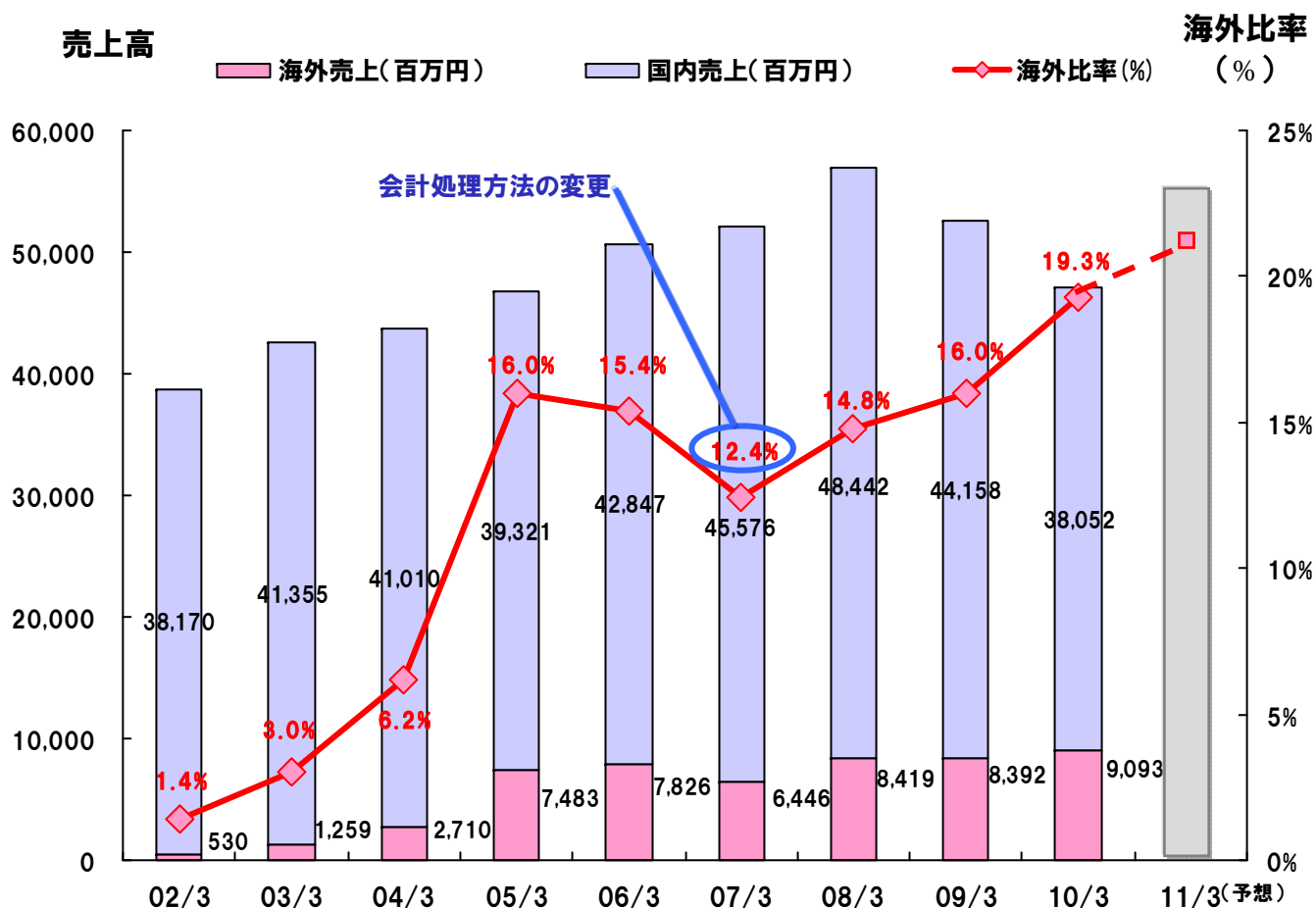
⇒ 将来の人民元取引を見据え、現地進出日系企業向けを主とした合成樹脂原料・製品等の販売に注力



\*コンパウンド拠点：目的とする性能や機能を得るために、プラスチックのベース樹脂に強化材や添加剤を配合した材料を製造する拠点

# 10. 今後の海外拠点動向

大連の本格稼働、ベトナムと香港の拠点連携等を通じて、  
日系企業への更なる営業強化



11/3期 売上高予想

主な海外拠点

(百万円)

拠点	売上高	前年度比
香港	6,898	+36%
上海	2,757	+38%
大連	1,284	+494%
シンガポール	859	+36%
天津	143	+25%

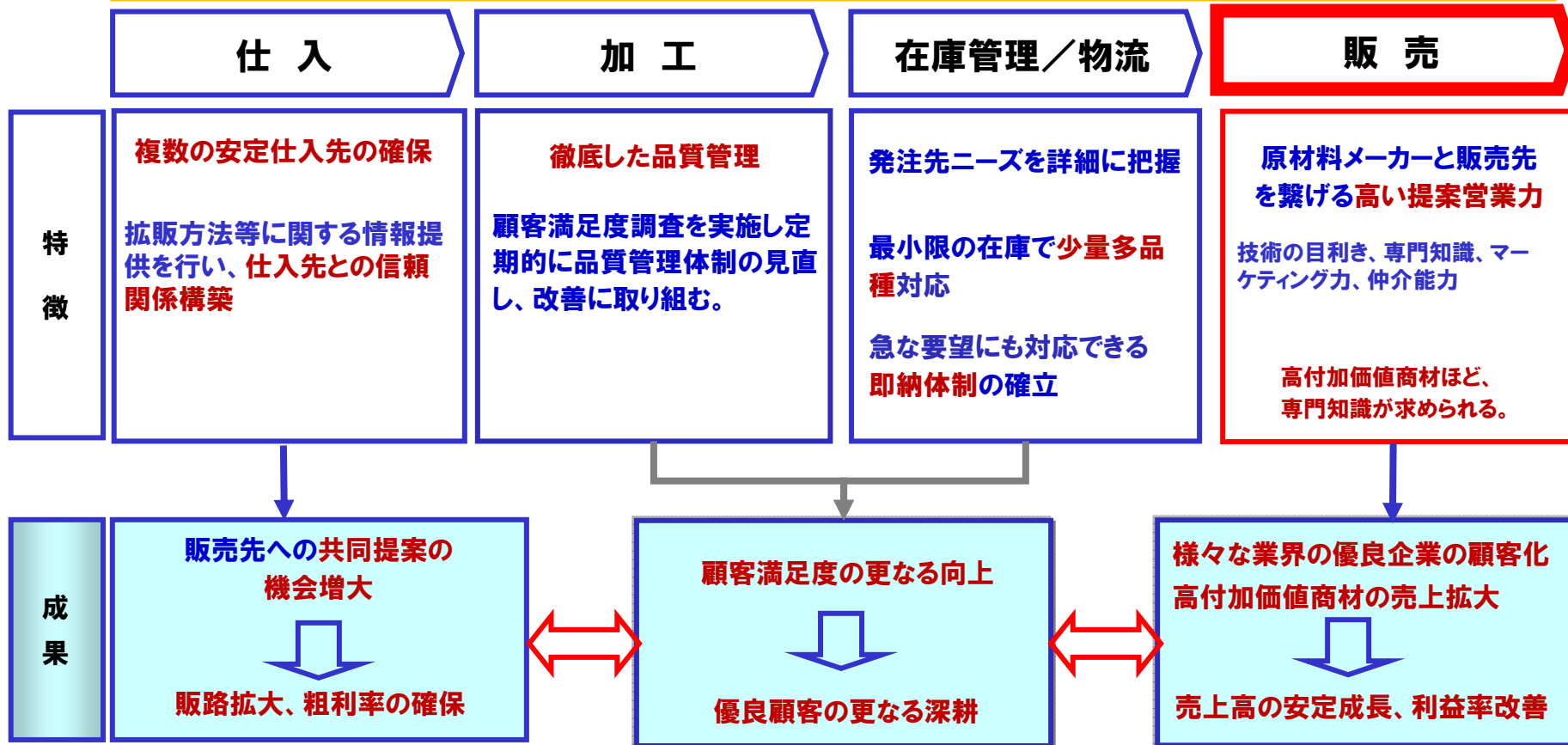
※海外売上には、海外拠点の売上高に加え、日本からの海外向け売上高も含まれております。

※なお、前年度の大連の実績は2ヶ月のみ稼働

# 11. 当社のコア・コンピタンス

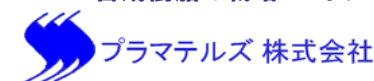
## 販売先の求める一歩先の提案を行なう営業力

顧客満足度を高めるための品質管理 (顧客満足度を自立的に高めるための仕組みの導入)



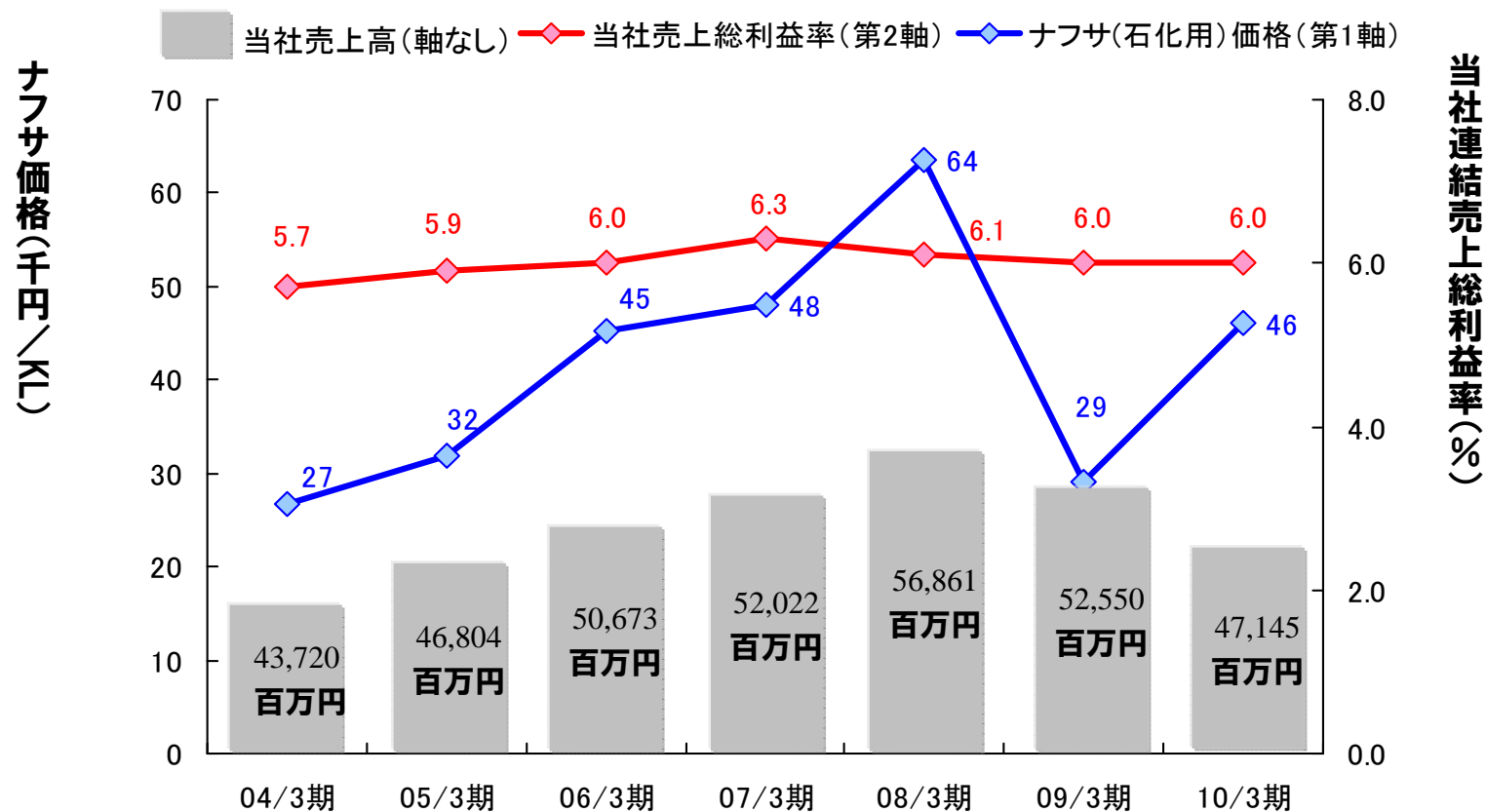
## 12. 原材料価格の変動に左右されにくい安定した利益率

<合成樹脂の戦略パートナー>



### 原材料のナフサ価格に左右されにくい安定した売上総利益率を維持

【当社売上総利益率とナフサ(石化用)価格の推移】

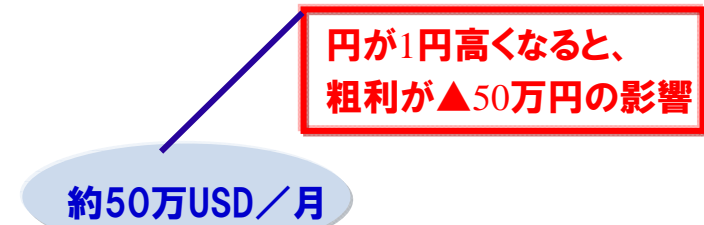
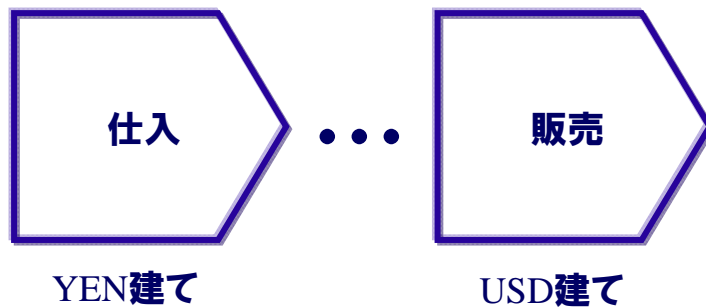


\*売上総利益率の変化は、商材構成比、その他戦略投資の有無 等が主な変動要因。

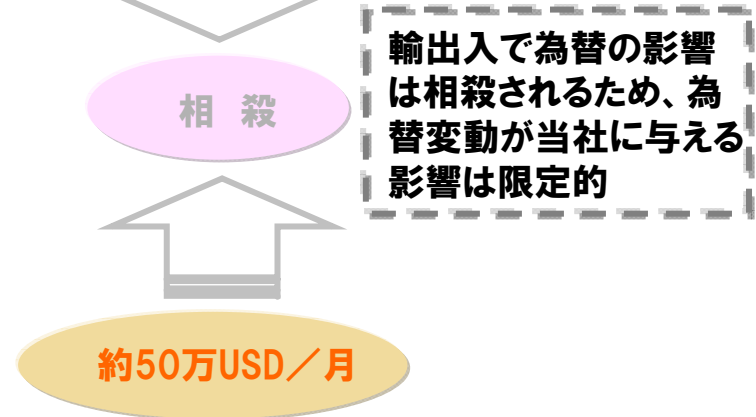
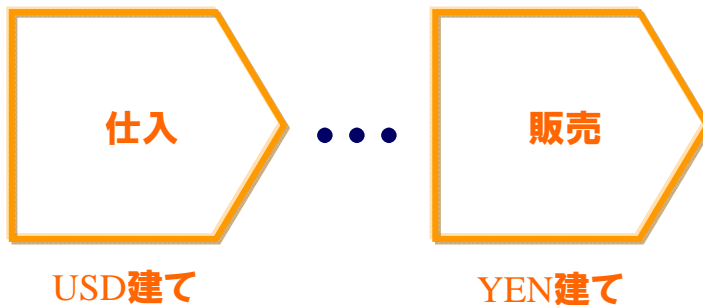
# 13. 為替の影響

## 為替変動が当社に与える影響は限定的

【輸出: 為替変動が当社損益に与える影響】



【輸入: 為替変動が当社損益に与える影響】



\* 11/3月期は1US\$ = 90~95円程度を想定

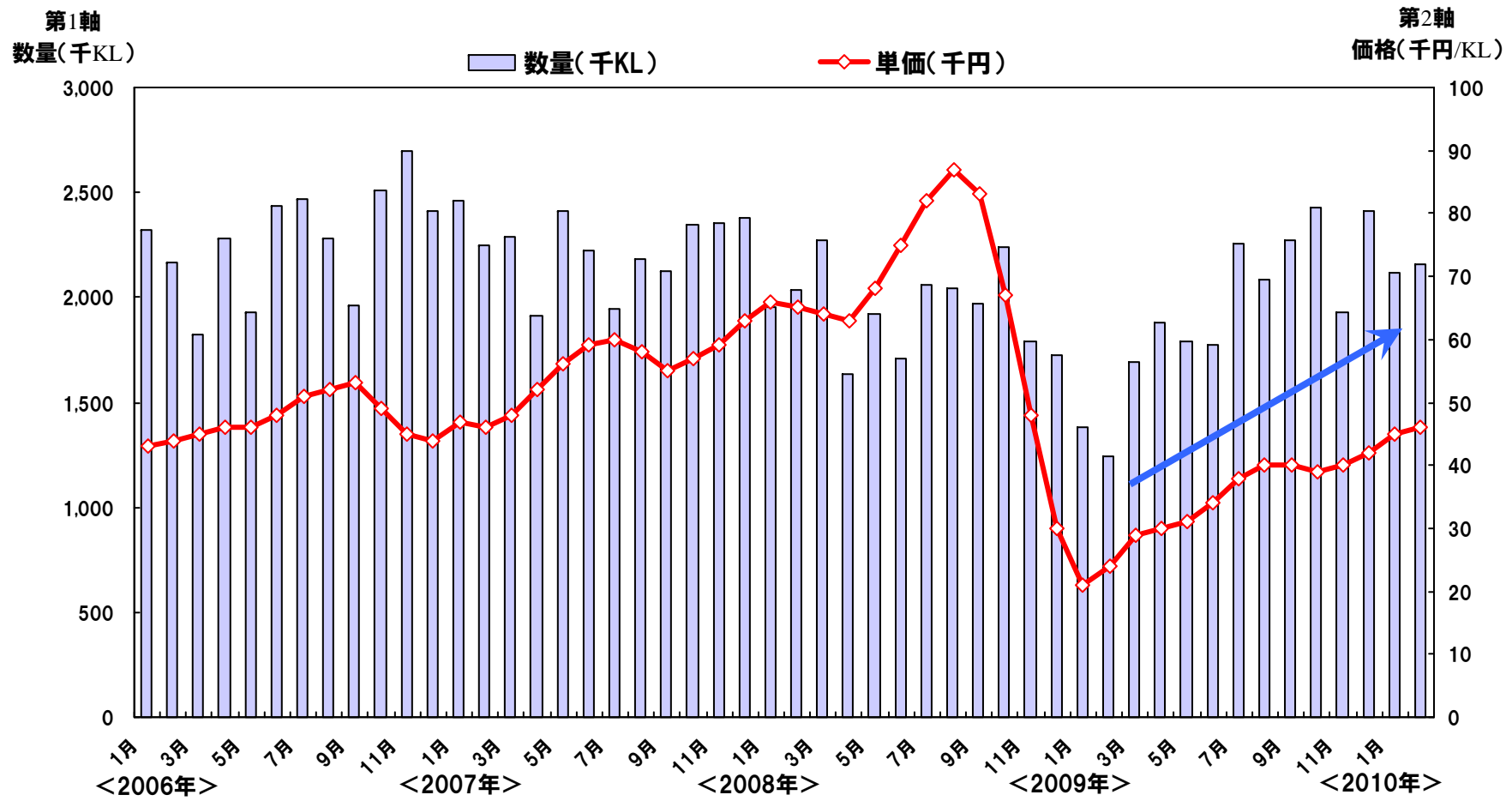
### III. 市場環境

14. ナフサの価格・数量

15. 国内合成樹脂数量動向

# 14. ナフサの価格・数量動向

- ・ ナフサ価格は、2009年2月を底に、数量も2009年3月を底に、回復傾向。
- ・ 2010年2月では、数量は従前並みに、価格は2006並みに。

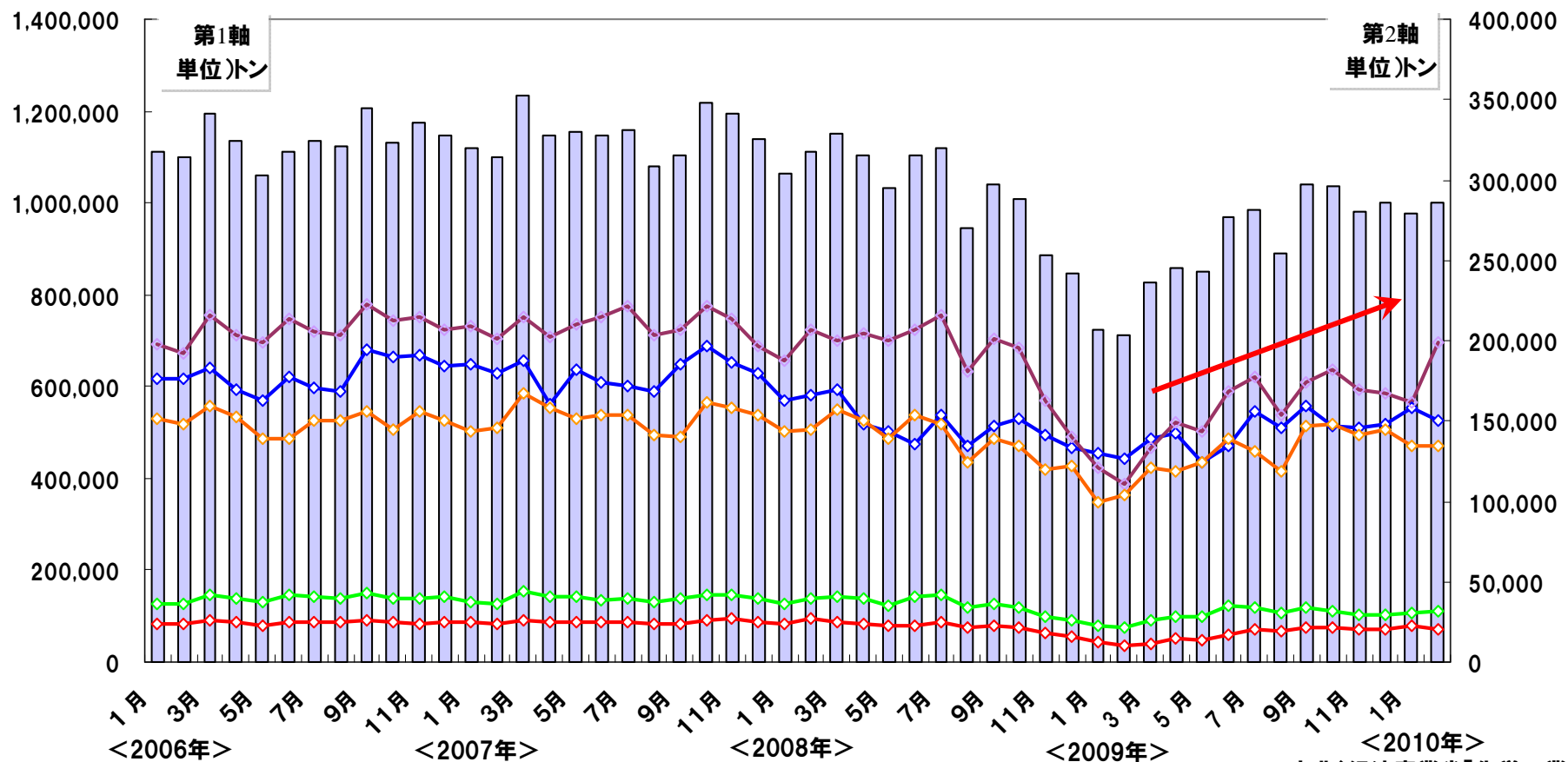


出典)財務省「貿易統計」2010年2月は速報値。

# 15. 国内合成樹脂販売数量動向

- ・ 国内合成樹脂販売数量動向 2010年2月実績（対2009年2月比）
  - － 全体で4割超の増加（＝2008年2月の約9割水準にまで回復）。
  - － 高付加価値商材であるエンジニアリング樹脂は約2倍に増加、スチレン系樹脂も5割近くの増加。

■ 合計(第1軸)  
 ◆ 塩化ビニル樹脂(第2軸)  
 ◆ その他樹脂(第2軸)  
 ◆ スチレン系樹脂(第2軸)  
 ◆ オレフィン系樹脂(第2軸)  
 ◆ エンジニアリング樹脂(第2軸)



出典)経済産業省「化学工業統計」

## IV. 2011年3月期 通期連結予想

16. 2011年3月期 通期連結業績予想

17. 経営指標

18. 2011年3月期の経営戦略まとめ

# 16. 2011年3月期連結業績予想

## 1. 売上高

既存の優良顧客の深耕等の取り組みにより、早期の回復を遂げる

## 2. 営業利益

コスト削減を継続し、利益確保に努める

(単位:百万円、%)

	10/3期 (実績)		11/3期					
	金額	売上高比	(上期予想)		(下期予想)		(通期予想)	
			金額	売上高比	金額	売上高比	金額	売上高比
売上高	47,145	100.0	27,100	100.0	28,900	100.0	56,000	100.0
営業利益	663	1.4	330	1.2	400	1.4	730	1.3
経常利益	621	1.3	310	1.1	380	1.3	690	1.2
当期純利益	388	0.8	180	0.7	240	0.8	420	0.8
一株当たり 当期純利益	45.49	—	21.06	—	28.07	—	49.13	—

(注) 2010/3月 発行済み株式数: 8,550,000株

配当予定(連結): 第2四半期配当 6.00円 年間配当 13.00円

# 17. 経営指標

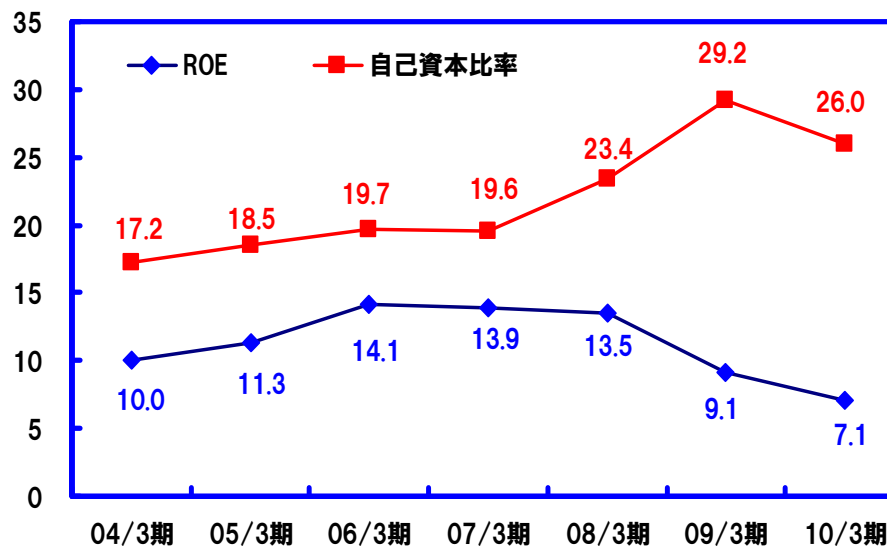
## 1. ROE 15.0%以上（10/3期：7.1%）

10/3期では、当期純利益率と総資産回転率がともに、対前年度比で▲0.1p減少し、財務レバレッジが+0.4pととなり、ROEが、▲2.0p低下

## 2. 今後の方針


現在の自己資本の水準を維持しながら、収益性、効率性の改善を図ることで、ROEの向上を図っていく

### 【当社ROEと自己資本比率の推移】



	04/3	05/3	06/3	07/3	08/3	09/3	10/3
ROE (%)	10.0	11.3	14.1	13.9	13.5	9.1	7.1
当期純利益率 (%)	0.7	0.9	1.1	1.3	1.2	0.9	0.8
総資産回転率 (回)	2.2	2.3	2.4	2.2	2.3	2.5	2.4
財務レバレッジ (倍)	5.8	5.4	5.1	5.1	4.3	3.4	3.8
自己資本比率 (%)	17.2	18.5	19.7	19.6	23.4	29.2	26.0

## 18. 2011年3月期の経営戦略まとめ

<p>景気動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景気持ち直しの傾向は継続しているものの、そのペースは緩やか</li> </ul>
<p>為替動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円高ドル安傾向継続(1\$=90円) 2010年5月26日現在(1\$=89.81円)</li> </ul>
<p>市場動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国をはじめとする新興国での原油需要は継続し、原油価格はジリ高傾向</li> <li>・ 国内合成樹脂販売数量ベースでは、対前年度比4割増(2008年の約9割水準にまで回復)</li> </ul>
	
<p>経営施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高付加価値商材を中心に、日系大手優良企業の更なる深耕に注力</li> <li>・ 海外では、中国を中心に、更なる商機の獲得に向け、積極的に展開</li> <li>・ 全社的なコスト削減の継続</li> <li>・ 厳格な与信管理の継続</li> <li>・ 減益要因の低減(貸倒損失、在庫評価損の発生防止)</li> </ul>
<p>株主還元</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11/3期予想EPS 49.13円 1株当たり配当金予想 年間13.00円 (ご参考 10/3期: 実績EPS 45.49円、年間配当13.00円)</li> </ul>

＜お問い合わせ先＞

**プラマテルズ 株式会社**

**経営企画部 部長 山本 倫寛**

**電話 : 03 - 5789-9700**

**FAX : 03 - 5789-1690**

本資料には当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略など将来に関連する記述が含まれております。これらの将来に関する記述については、当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定に基づいており、将来における当社業績または展開に対し確約や保証を与えるものではありません。ご利用に際しましては、予想と異なる結果になる可能性がある点にご留意されますようお願い申し上げます。